

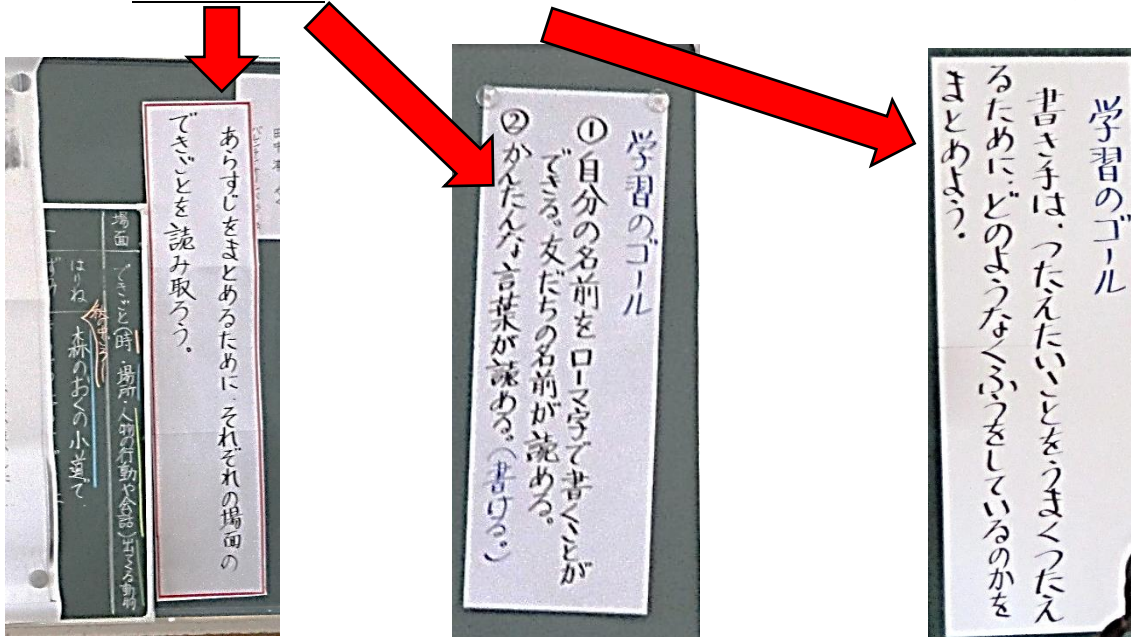
1 導入の工夫の目的

導入を工夫することにより、必然性のあるめあてをもたせ、学習への意欲を高めて主体的な学びにつなげる。

2 導入の工夫の視点と授業の実践

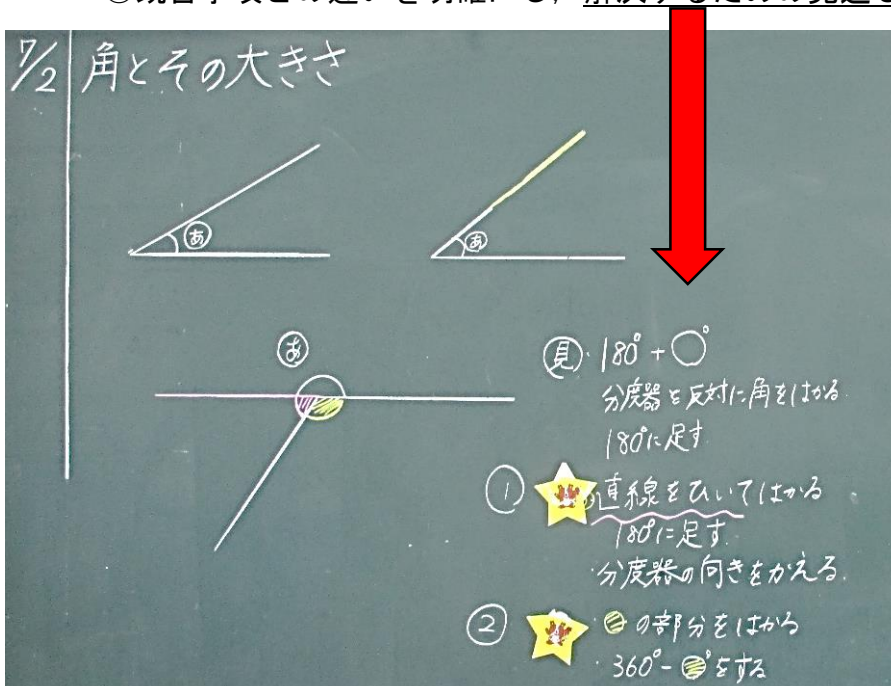
視点1 単元を貫くゴールからめあてにつなげる。

◎学習のゴールを明確にする。（目的意識と相手意識をもたせて意欲を高める。）



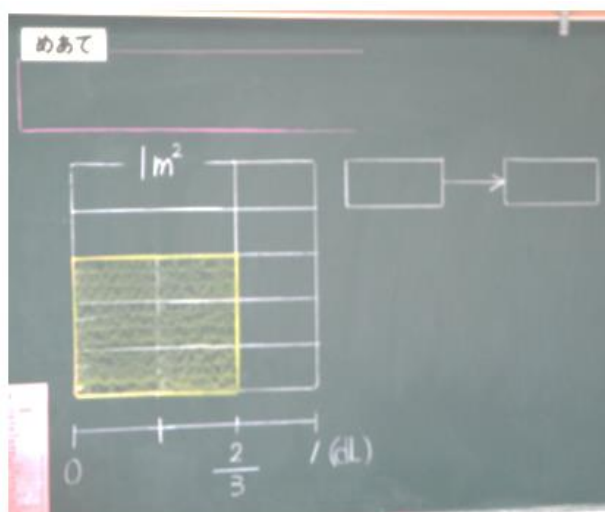
視点2 既習事項とのズレからめあてにつなげる。

◎既習事項との違いを明確にし、解決するための見通しをもたせる。



視点3 問題の気づきからめあてを児童から出させる。

◎問題解決に必要な情報を児童から出させる。



気づいたことは何ですか？

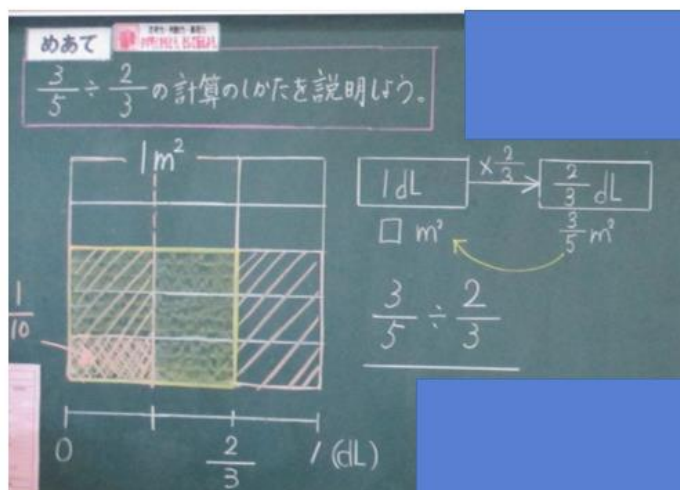
3分の2と書いてあります。

1m²と書いてあります。

3分の2dLで5分の3m²ぬれるのだと思います。

何を求めたらいいですか？

1dLで何m²ぬれるかを求めたらよいと思います。



今まで学習した関係図に表すと、どうなりますか。

1dLあたりを求めるので、左側に1dL, 右側に3分の2dLと書きます。

3分の2dLで5分の3m²ぬれます。

式は、5分の3わる3分の2になります。

今日のめあては、何がいいですか。

5分の3わる3分の2の計算の仕方を考えればよいと思います。

視点4 問題提示の仕方を工夫する。

◎何に注目すればよいのか、ねらいを焦点化して提示する。

①絵の一部を隠す。



りっちゃんの気持ちを考えよう。



②絵の一部だけ見せる。



何の植物だろう。

